

公立大学法人横浜市立大学の平成29年度年度計画に対する各委員評価一覧

S:年度計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している。 A:年度計画を順調に達成している。
B:年度計画を十分には達成できていない C評価:年度計画をほとんど達成していない。

平成29年度 年度計画 (項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	10	A	A	S	データサイエンス学部新設、国際総合科学部再編に際し、全学的な取り組みの下に着実に成果を上げたほか、他学部・研究科も含め、取り組みが積極的で成果も著しい。
				A	
				A	以下を含め、看護学など多岐に渡って順調に展開した。
				A	全ての分野で具体的取組が計画的に進み、年度における数値目標もほぼ達成。いずれの施策も継続してこそその真の目的達成となるものばかりなので、このレベルの維持を期待したい。
				A	
I-1 教育に関する取組	10	A	A	S	学部再編の一環として、先ずデータサイエンス学部の30年度開設に向けて学生募集が行われたが、志願倍率、歩留率ともに高く、志願度の高い学生を獲得できたことは、大いに評価できる。国際総合学部の新たな3学部構成の文部科学省への設置届出に向けて、各学部のポリシー、カリキュラム、選抜方法の検討・決定が、全学態勢で行われた。31年度からの新たな学部教育の展開が大いに期待される。医師、看護師、保健師国家試験の合格率は、いずれも全国平均を遥かに上回っており、地道な教育の成果として評価できる。
				A	新しい学部を創設するなど、計画に沿って運営できた。
				A	
				A	
				S	
I-1-(1) 全学的な取組	10				・データサイエンス学部の開設準備や初年度入試に向けての取組を十分に行った結果、志願倍率7.1倍という多くの志願者の中から志望度の高い学生を獲得できた。まずは順調なスタートを切れたことを高く評価する。 ・学部再編準備を進めている国際総合学部での新3学部のポリシー・カリキュラム等の決定プロセスにおいて、全教員の参加を重視している姿勢を評価する。これに限らず、情報共有と全員参加を念頭においた取り組みが多数みられるのは多いに評価できる。
I-1-(2) 学部教育に関する取組	12				アクティブラーニング導入率46.6%は、指標とする80%に達していないが、これから急速に伸びることを期待する。グローバルスタンダードに準拠した医学教育の推進に向け、臨床実習の70週化に向けた準備が行われている。
					医師国家試験の合格率は過去最高だった28年度をさらに上回る97.7%で全国第2位となり、また看護師、保健師も高い合格率を継続している。
I-1-(3) 大学院教育に関する取組	14				医学研究科看護学専攻博士後期課程の設置が認可され、優秀な5人の学生を確保できた。好調な出足を継続できることを期待する。
I-1-(4) 学生支援に関する取組	15				学生アンケートの結果を踏まえた環境改善に取り組んだことは、評価できる。
					28年度実施の学生生活アンケート結果について、部署を横断したワーキンググループを立ち上げ、優先課題の抽出と対応を行ったことを評価する。
I-2 研究の推進に関する取組	16	A	A	A	
				A	
				A	産学協働、特定臨床研究など、実学という観点から計画を十分に達成できた。
				A	計画は順調に実施されており、主な指標もすべて目標値を達成している。
I-2-(1) 研究の推進に関する取組	16				主要学術誌等掲載論文数、科学研究費補助金採択件数、共同受託研究数、先進医療の申請数(がん関連)等は、指標を定めた27年度に対して、いずれも順調に実績を伸ばしていることから、研究活動が活発に行われていると評価できる。
I-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する取組	18				
II 地域貢献に関する取組	20	A	A	A	UDCN並木ラボでの取組やボランティア活動の活性化、公開講座の開講等に積極的に取り組んだ。
				A	「地域志向科目」を全学生必修として実施しているが、29年度は2863人の学生が履修し、継続的に推進することが確認された。ボランティア支援室と学生スタッフが独自プログラムを企画、ボランティア派遣数は443人に、教員を中心とした「エクステンション講座」は130講座開催、地域医療の推進の強化も含め、地域貢献が順調に展開されていることを評価する。
				A	横浜市のシンクタンク機能、医療連携など高く評価できる。
				A	各施策が充分達成されている。
				S	計画を順調に実施しており、特にボランティア派遣数(目標250人:実績443人)、横浜市との連携取組件数(目標5件:実績30件)、エクステンション講座(目標100講座:実績130講座)など、目標を大幅に上回っているものも多く、S評価とした。地域の課題を解決する教員地域貢献活動支援事業では、「空き家活用プロジェクト」や「金沢シーサイドタウンのコミュニティ活性化及び健康に暮らせるまちづくり」などが計画通り協働型に移行することで補助金終了後も継続が決まり、市立大学としての責務を十分に果たしている。
III 国際化に関する取組	24	A	A	A	留学生への支援、派遣留学の奨励等に積極的に取り組んだ。
				A	この数年で国際化は格段の進歩を遂げたことを、大いに評価したい。受入留学生数の増加、海外派遣プログラムに参加した学生比率は中期計画の目標達成に近づいた。協定校の数も増加している。グローバル教育センターの新設により、一層の国際化が進むことを期待したい。
				A	アジア諸国からの多くの留学生が学ぶことができている。
				A	計画はできている。より積極的展開必要。
				A	
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	27	A	A	A	一部にB評価があるが、総じて計画を達成している。
				A	数値目標はほぼ達成しているが、残念ながら医療事故が発生した。法人経営の課題ではあるが、センター内においてもより一層の安全の仕組みづくりと実効性ある運用が急務。
				A	
				A	
				A	
IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組	27	A	A	A	政策的医療の推進、高度医療の提供、地域医療機関との連携等に積極的に取り組んだ。
				A	手術件数、先進医療申請件数、平均在院日数、外来初診患者数(新患率)等、ほぼ29年度目標を達成している。
				A	地域連携を軸に大学病院に相応しい医療の提供がなされている。
				A	稼働報告、DPCデータ、粗利益などの各種会議体への報告や、院内の教職員が経営指標へアクセスできる環境構築など、情報の共有化を進めたことにより、医療の質及び経営成績の両面向上につながったことを評価する。
IV-2 医療人材の育成等に関する取組	31	A	A	A	「新たな専門医療制度」への対応策について検討が行われるとともに、臨床研修医確保の取組み等を含めた医療スタッフの確保と育成に努めるなど、目標を達成した。また医師の負担軽減、女性医療スタッフの復職支援など、労働環境の向上を図った。
				A	新しい専門医制度に対応し、病院事務職の養成や看護師の特定行為研修についても積極的である。
				A	
				A	

平成29年度 年度計画 (項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
IV-3 地域医療に関する取組	33	A	A	A	在院日数の適正化、外来患者数の適正化を図った。「患者サポートセンター」の運用を開始、入院支援部門と地域連携部門の一元管理体制を整えた。 地域の医療機関と十分な連携がなされている。また横浜市民への啓発活動などにも取り組んでいる。
				A	
				A	
				A	
				A	
IV-4 先進的医療・研究に関する取組	35	A	A	A	先進医療申請数は、附属病院は目標数を、センター病院は目標数を上回った。先進的医薬品開発を目指して医師主導治験を実施、新規治験の受入件数は、ほぼ目標数を達成した。 医学部と病院との連携による多くの研究が計画的に行われ、臨床研究中核病院へと着実に進めている。
				A	
				A	
				A	
				A	
IV-5 医療安全・病院経営に関する取組	37	A	B	S	患者相談体制については、機能の周知・利用の促進を広報するとともに、業務の効率化を図った。がん患者への就職支援、治療と職業生活の両立支援に取り組んだ。患者満足度調査において、両病院とも目標値を大幅に上回る90%以上の結果を得た。人材の効果的かつ適正な配置と活用を行った上で、人件費比率は目標値である50%をほぼ達成し、評価できる。医療安全に関する研修の受講率は約100%であり、今後とも教育・研修への取組みを充実させていただきたい。 医療安全を図る、病院を健全に運営する取り組みは標準的であるが、結果の重大な医療事故があった。
				A	
				B	
				B	
				B	
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	43	A	A	S	一部にアカハラや医療事故等の残念な事例もあったが、適切な対応に努め、法人全体として3年ぶりの黒字経営となったことは特筆に値する。 ポート見落としがあったが、総じてAと評価できる。 財務改善は進んだが、コンプライアンス等は今一歩。
				A	
				A	
				B	
				A	
V-1 業務運営の改善に関する取組	43	B	B	B	画像や病理所見等のポート見落としへの対応、火災時の火災区画の形成、籠城避難など、残された課題がある。 やはり事故事案、毎年度の発生は重い。
				B	
				B	
				B	
				B	
V-1(1)コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組	43				ハラスメントや個人情報紛失等が発生したことは残念である。これを受けて今後の防止に対する各種取組が試みられたが、このような事故は嘗ても発生しているため、個人の自覚を促して欲しい。大学、病院共に防災訓練や普通救命講習の回数は目標値を上回ったことは評価できる。 ハラスメントの発生、個人情報事故、重大な医療事故の発生など、経営の信頼を揺るがす事案が今年度も発生しており、ガバナンス機能、内部統制の抜本的改善が求められる。 コンプライアンス推進に取り組んできたが、29年度にもアカデミックハラスメントや個人情報紛失が発生したのは遺憾である。被害者がハラスメント防止委員会に申立てたという点では委員会が機能しているが、過去にも同一人物に関し同じような相談があったという点から、当該教授への過去の処分・対応が妥当であったかや疑問が残る。コンプライアンスについては、完全に発生0とするのは不可能ではあるが、違反行為発生防止と共に、発生の早期発見と迅速・適切な対応も重要である。今後も継続して取り組んでいただきたい。
V-1(2)人材育成・人事制度に関する取組	44				教員のモチベーション向上のための学長表彰もよいが、職員に実施してみてもどうか。教員の公募では、応募者はどのくらいか(応募倍率)。「男女とも働きやすい職場の実現」に向けた取組が前進することを期待する。学生たちのロールモデルとなって欲しい。 ダイバーシティの推進と障害のある学生への支援を進めていることを評価する。
V-1(3)大学の発展に向けた基盤整備に関する取組	46				附属病院の再整備に向けてその将来像の検討、付属学校設置も視野に入れながらの高大一貫教育体制の検討など、中長期的視野に立った基盤整備の取組に着手されていることを評価する。
V-1(4)情報の発信に関する取組	47				プレスリリースのメディアへの掲載率は82.5%で28年度実績70%を上回った。データサイエンス学部の広報は多岐の手段によって効を奏し、志願者数も目標を大きく上回った。広報に力を入れることは認知度向上に大切であり、志願者数増強に繋がるので、更なる前進を期待する。
V-2 財務内容の改善に関する取組	48	S	S	S	年度計画を順調に達成し、かつ結果として”赤字”を免れることができた。 コスト改善、収益の向上等、財務改善が大幅に進捗。今後の安定性が期待できる。 附属2病院で院内プロジェクトを実施し、職員が丸丸となって経営改善に取り組み、黒字転換したことは大いに評価できる。また、外部資金獲得や寄付活動の強化も目標を上回っており、これらの点からS評価とした。30年度以降も継続されることを期待する。
				A	
				A	
				S	
				S	
V-2(1)運営交付金・貸付金に関する取組	48				
V-2(2)自己収入の拡充に関する取組					
V-2(3)経営の効率化に関する取組					
IV 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	49	A	A	A	実績報告書の作成、評価結果の学内周知、計画途上での振り返りと必要な対応に積極性が認められる。 一部にB評価があるが、総じて計画を達成できている。 年度計画の進捗管理で上半期振り返りを実施し、課題とその改善方法を明確にしたことを評価する。
				A	
				A	
				A	
				A	

総合コメント	大学を取り巻く環境が厳しい中、理事長以下の役職員が真摯に諸課題に取り組まれ、かなりの成果を上げており、今後一層の大学の発展と充実を期待できる。
	29年度は「第3期中期計画」の初年度に当たる。教学面においては、データサイエンス学部の30年度開設に向けた準備と入学選抜が行われ、目標を上回る志願者数を得た。更に国際総合科学部の再編を目指し、30年4月に新学部設置届出のための検討を行うなど、学部編成の充実に向けて飛躍した年となった。国際化に関しては、この数年著しい進歩を遂げたことを、大いに評価したい。特に海外派遣プログラムの拡充など留学しやすい学習環境を整えたこと、留学生の受入れを増やす各種プロジェクトが作られたことである。医療面では、がん医療と患者サポートの充実が図られた。経営面では収支改善が図られ、法人全体で黒字決算となった。このように好調な運営にもかかわらず、アカデミックハラスメント、医療事故、個人情報の持ち出し紛失など、法人の信頼を揺るがす事案が発生したことは、誠に残念である。大学は信頼を回復して、一層教育・研究の実績を上げることを期待したい。
	医療事故とコンプライアンス違反発生という問題はあったが、データサイエンス学部準備が順調に進められ初年度入試で好スタートを切ったこと、及び3期ぶりに黒字に転換したことから、第3期中期計画の初年度としてはまあまあ良い実績だったのではないかと。